



GENECODE

ジーンコード ver 3

ユーザマニュアル

JavaScript API リファレンス

第 1 版

最終更新日 2018/12/20

目次

第 1 章	概要	5
第 2 章	JavaScript API 一覧	6
2-1	gcutil パッケージ	6
(1)	out 関数	6
(2)	getElementsByMark 関数	6
(3)	containsMark 関数	7
(4)	getParameter 関数	7
(5)	getPostParameter 関数	8
(6)	getQueryString 関数	8
(7)	getPort 関数	9
(8)	getStatusCode 関数	9
(9)	getSourceUrl 関数	10
(10)	getSourceUri 関数	10
(11)	getSourceQueryString 関数	11
(12)	getMethod 関数	11
(13)	getUri 関数	12
(14)	getHeader 関数	12
(15)	getResponseHeader 関数	13
(16)	setResponseHeader 関数	13
(17)	addResponseHeader 関数	14
(18)	removeResponseHeader 関数	14
(19)	hasTerminfo 関数	15

(20)	getTerminfoProperty 関数.....	15
(21)	escapeHtml 関数.....	16
(22)	getTemplate 関数.....	16
(23)	toHtml 関数.....	17
(24)	toDebugHtml 関数.....	17
(25)	writeViewport 関数.....	18
(26)	isGroup 関数.....	18
(27)	getRemoteGroup 関数.....	19
2-2	gclog パッケージ.....	19
(1)	error 関数.....	20
(2)	debug 関数.....	20
(3)	trace 関数.....	21
(4)	isErrorEnabled 関数.....	21
(5)	isDebugEnabled 関数.....	22
(6)	isTraceEnabled 関数.....	22
2-3	gcruntime パッケージ.....	24
(1)	loadJs 関数.....	24
(2)	loadJsOnce 関数.....	24
(3)	setTemplate 関数.....	25
(4)	redirect 関数.....	25
(5)	setTerminfoProperty 関数.....	27
2-4	jQuery 拡張関数.....	27
(1)	gc_image_resize 関数.....	27

(2) gc_image_clip 関数.....28

第1章 概要

本ドキュメントは、GeneCode テンプレートの<gc-script>タグ内やコントローラで利用可能な JavaScript API について記述しています。

スマートフォンなどのブラウザ上で実行されるクライアント JavaScript(<script>タグ)ではこれらの API は利用できません。

第2章 JavaScript API 一覧

2-1 gcutil パッケージ

(1) out 関数

書式	gcutil.out(str)
引数	str: 文字列(必須)
戻り値	なし
説明	引数で指定された文字列をレスポンスとして出力します。
必要 JS ファイル	なし
導入バージョン	1.0.0
例	<pre><div> <gc-script> var msg = "JavaScript 上で生成した文字列です。
"; gcutil.out(msg); </gc-script> </div></pre>

(2) getElementsByMark 関数

書式	gcutil.getElementsByMark(mark)
引数	mark: 文字列(必須)
戻り値	NodeList。マークが存在しない場合はサイズ 0 の NodeList。
説明	PG コンテンツに埋め込んだ GeneCode 属性のマーク(data-gc-mark)で指定した名前で要素を取得します。

必要 JS ファイル	なし
導入バージョン	1.2.0
例	<pre><gc-script> var elem = gcutil.getElementsByMark('foo'); var \$obj = \$(elem); </gc-script></pre>

(3) containsMark 関数

書式	gcutil.containsMark(mark)
引数	mark: 文字列(必須)
戻り値	指定した名前のマークが PC コンテンツに埋め込まれている場合は true
説明	引数で指定されたマーク名が PC コンテンツに存在するかどうかを判定します。
必要 JS ファイル	なし
導入バージョン	1.2.0
例	<pre><gc-script> if (gcutil.containsMark('foo')) { gcutil.out('マークが存在します'); } </gc-script></pre>

(4) getParameter 関数

書式	gcutil.getParameter(name)
引数	name: パラメータ名(必須)
戻り値	パラメータ値を表す文字列。存在しない場合は undefined。

説明	リクエスト URL のクエリ文字列から指定されたパラメータ名の値を取得します。同名のパラメータが複数存在する場合は、最初に出現したパラメータが返されます。
必要 JS ファイル	なし
導入バージョン	1.0.0
例	<pre><gc-script> var val = gcutil.getParameter("key"); </gc-script></pre>

(5) getPostParameter 関数

書式	gcutil.getPostParameter(name)
引数	name: パラメータ名(必須)
戻り値	パラメータ値を表す文字列。存在しない場合は undefined。
説明	メッセージボディから指定されたパラメータ名の値を取得します。同名のパラメータが複数存在する場合は、最初に出現したパラメータが返されます。
必要 JS ファイル	なし
導入バージョン	1.2.0
例	<pre><gc-script> var val = gcutil.getPostParameter("key"); </gc-script></pre>

(6) getQueryString 関数

書式	gcutil.getQueryString()
引数	なし
戻り値	リクエスト時のクエリ文字列。存在しない場合は undefined。

説明	URL で渡されたクエリ文字列を取得します。
必要 JS ファイル	なし
導入バージョン	2.0.0
例	<pre><gc-script> var val = gcutil.getQueryString(); </gc-script></pre>

(7) getPort 関数

書式	gcutil.getPort()
引数	なし
戻り値	ポート番号(整数値)
説明	リクエストされたポート番号を取得します。この戻り値は Apache で受け付けているメインサーバ/VirtualHost で使用しているポート番号と同じになります。
必要 JS ファイル	なし
導入バージョン	2.0.0
例	<pre><gc-script> var val = gcutil.getPort(); </gc-script></pre>

(8) getStatusCode 関数

書式	gcutil.getStatusCode()
引数	なし
戻り値	ステータスコード(整数値)
説明	PC サイトのレスポンスのステータスコードを取得します。
必要 JS ファイル	なし

導入バージョン	1.0.0
例	<pre>if (gcutil.getStatusCode() == 404) { gclog.debug("404 not found"); }</pre>

(9) getSourceUrl 関数

書式	gcutil.getSourceUrl (flag)
引数	GCHtmlSourceBaseUrl ディレクティブで設定した値を使用するかどうかの真偽値
戻り値	変換元(Proxy 先)の絶対 URL 文字列
説明	変換元の絶対 URL 文字列を取得します。引数を省略時、もしくは true を指定すると、GCHtmlSourceBaseUrl ディレクティブで設定したホスト名を使った URL が返されます。false を指定した場合は、Proxy 時に使用している URL がそのまま返されます。
必要 JS ファイル	なし
導入バージョン	2.0.0
例	<pre><gc-script> var val = gcutil.getSourceUrl(); </gc-script></pre>

(10) getSourceUri 関数

書式	gcutil.getSourceUri ()
引数	なし
戻り値	変換元(Proxy 先)のリクエスト URI 文字列。クエリ文字列は含まれない。
説明	変換元のリクエスト URI 文字列を取得します。この戻り値にはクエリ文字列は含まれません。
必要 JS ファイル	なし

導入バージョン	2.0.0
例	<pre><gc-script> var val = gcutil.getSourceUri(); </gc-script></pre>

(11) getSourceQueryString 関数

書式	gcutil.getSourceQueryString ()
引数	なし
戻り値	変換元(Proxy 先)のクエリ文字列。存在しない場合は undefined。
説明	Proxy 先のクエリ文字列を取得します。
必要 JS ファイル	なし
導入バージョン	200
例	<pre><gc-script> var val = gcutil.getSourceQueryString(); </gc-script></pre>

(12) getMethod 関数

書式	gcutil.getMethod()
引数	なし
戻り値	リクエストメソッドを表す文字列
説明	リクエストメソッドを取得します。戻り値は、全て大文字表記で返されます。
必要 JS ファイル	なし
導入バージョン	1.2.0
例	<pre><gc-script> if (gcutil.getMethod() == 'POST') {</pre>

	<pre> gcutil.out('POST です'); } </gc-script> </pre>
--	---

(13) getUri 関数

書式	gcutil.getUri()
引数	なし
戻り値	リクエスト URI を表す文字列
説明	<p>リクエストされた URI のうち、ホスト名、ポート番号、パラメータ以外の部分(リクエスト URI)を取得します。リクエスト URI にはクエリー文字列は含まれません。</p> <pre> http://foo.bar/index.html -> /index.html http://foo.bar/ -> / http://foo.bar/path/?a=b -> /path/ </pre>
必要 JS ファイル	なし
導入バージョン	1.0.0
例	<pre> <gc-script> var uri = gcutil.getUri(); </gc-script> </pre>

(14) getHeader 関数

書式	gcutil.getHeader(name)
引数	name: リクエストヘッダ名(必須)
戻り値	リクエストヘッダ値を表す文字列。リクエストヘッダが存在しない場合は undefined。
説明	指定された名前のリクエストヘッダを取得します。

必要 JS ファイル	なし
導入バージョン	1.0.0
例	<pre><gc-script> var host = gcutil.getHeader("Host"); </gc-script></pre>

(15) `getResponseHeader` 関数

書式	<code>gcutil.getResponseHeader(name)</code>
引数	name: レスポンスヘッダ名 (必須)
戻り値	レスポンスヘッダ値を表す文字列。レスポンスヘッダが存在しない場合は undefined。
説明	指定された名前のレスポンスヘッダを取得します。
必要 JS ファイル	なし
導入バージョン	1.0.0
例	<pre><gc-script> var cookie = gcutil.getResponseHeader("Set-Cookie"); </gc-script></pre>

(16) `setResponseHeader` 関数

書式	<code>gcutil.setResponseHeader(name, value)</code>
引数	name: レスポンスヘッダ名 (必須) value: 値(必須)
戻り値	なし
説明	指定された名前のレスポンスヘッダを設定します。既に設定されている場合は、上書きされます。

必要 JS ファイル	なし
導入バージョン	2.1.0
例	<pre><gc-script> gcutil.setRequestHeader("Content-Type", "application/json"); </gc-script></pre>

(17) addResponseHeader 関数

書式	gcutil.addResponseHeader(name, value)
引数	name: レスポンスヘッダ名(必須) value: 値(必須)
戻り値	なし
説明	指定された名前のレスポンスヘッダを設定します。既にある場合でも追加で設定されます。
必要 JS ファイル	なし
導入バージョン	2.1.0
例	<pre><gc-script> gcutil.addResponseHeader("Set-Cookie", "boo=bar"); </gc-script></pre>

(18) removeResponseHeader 関数

書式	gcutil.removeResponseHeader(name)
引数	name: レスポンスヘッダ名(必須)
戻り値	なし
説明	指定された名前のレスポンスヘッダを削除します。ただし、Content-Type 等の一部ヘッダは自動で付与するので、削除できません。
必要 JS ファイル	なし

導入バージョン	2.1.0
例	<pre><gc-script> gcutil.removeResponseHeader("Set-Cookie"); </gc-script></pre>

(19) hasTerminfo 関数

書式	gcutil.hasTerminfo()
引数	なし
戻り値	端末情報が取得できた場合は true、取得できなかった場合は false
説明	Cookie、もしくはキャッシュから端末情報が取得できたかどうかを判定します。
必要 JS ファイル	なし
導入バージョン	1.0.0
例	

(20) getTerminfoProperty 関数

書式	gcutil.getTerminfoProperty(key)
引数	key: 端末情報項目名
戻り値	端末情報値を表す文字列。取得できなかった場合は undefined。
説明	Cookie、もしくはキャッシュから指定された名前の端末情報値を取得します。名前は大文字小文字が区別されます。
必要 JS ファイル	なし
導入バージョン	1.0.0
例	<pre><gc-script> var browserType = gcutil.getTerminfoProperty("browserType"); </gc-script></pre>

(21) escapeHtml 関数

書式	gcutil.escapeHtml(text)
引数	text: エスケープ対象の文字列
戻り値	HTML エスケープ済みの文字列
説明	テキストを HTML 形式にエスケープします。たとえば、「>」は「>」に変換されます。
必要 JS ファイル	なし
導入バージョン	1.0.0
例	<pre><gc-script> var escaped = gcutil.escapeHtml("
"); gcutil.out(escaped); </gc-script></pre>

(22) getTemplate 関数

書式	gcutil.getTemplate()
引数	なし
戻り値	現在のリクエストで決定されたテンプレートパス。未設定の場合は null。
説明	現在のリクエストで template-mapping.csv や controller.js で決定されたテンプレートパスを取得します。include 等で共通化したファイル中で、使用しているテンプレートによって処理を分けたい場合などに使用します。
必要 JS ファイル	なし
導入バージョン	2.1.0
例	<pre><gc-script> var templatePath = gcutil.getTemplate(); if (templatePath == '/index.html') { // }</pre>

	</gc-script>

(23) toHtml 関数

書式	gcutil.toHtml(elem or mark)
引数	elem: jQuery オブジェクト mark: 文字列
戻り値	なし
説明	引数で指定された jQuery オブジェクト、もしくは指定された GeneCode マーク名を持つ要素をブラウザに出力します。null や undefined を指定された場合は、それぞれ null、undefined と出力されます。
必要 JS ファイル	gcutils.js
導入バージョン	1.0.0
例	<pre><gc-script> gcutil.toHtml(\$(".body")); gcutil.toHtml('foo'); </gc-script></pre>

(24) toDebugHtml 関数

書式	gcutil.toDebugHtml(elem or mark)
引数	elem: jQuery オブジェクト mark: 文字列
戻り値	なし
説明	引数で指定された jQuery オブジェクト、もしくは指定された GeneCode マーク名を持つ要素を debug レベルでログに出力します。null や undefined を指定された場合は、それぞれ null、undefined と出力されます。

必要 JS ファイル	gcutils.js
導入バージョン	1.0.0
例	<pre><gc-script> gcutil.toDebugHtml(\$("body")); gcutil.toDebugHtml('foo'); </gc-script></pre>

(25) writeViewport 関数

書式	gcutil.writeViewport()
引数	なし
戻り値	なし
説明	スマートフォン用の viewport を出力します。
必要 JS ファイル	gcutils.js
導入バージョン	1.0.0
例	<pre><head> <gc-script> gcutil.writeViewport(); </gc-script> </head></pre>

(26) isGroup 関数

書式	gcutil.isGroup(name)
引数	name: 端末グループ名

戻り値	指定した端末グループに所属している場合は true、それ以外の場合は false
説明	クライアントが指定した端末グループに属しているかどうかを判定します。
必要 JS ファイル	なし
導入バージョン	1.0.0
例	<pre>if (gcutil.isGroup("android")) { gclog.debug("request from android "); }</pre>

(27) getRemoteGroup 関数

書式	gcutil.getRemoteGroup()
引数	なし
戻り値	IP アドレスリストに含まれるネットワークグループ名。IP アドレスリストに一致しない場合は null。
説明	GCHtmlIpAddressFile で記述された IP アドレスリストで、アクセスされた IP を元にネットワークグループ名を取得します。
必要 JS ファイル	なし
導入バージョン	1.0.0
例	<pre><gc-script> if (gcutil.getRemoteGroup() == 'docomo') { gcutil.out('docomo の IP アドレスです'); } </gc-script></pre>

2-2 gclog パッケージ

(1) error 関数

書式	gclog.error(str)
引数	str: メッセージ文字列
戻り値	なし
説明	GCHtmlLogFile ディレクティブで指定されたテンプレートログファイルにエラーレベルでログを出力します。 GCHtmlLogFile ディレクティブが未設定の場合は、出力されません。
必要 JS ファイル	なし
導入バージョン	1.0.0
例	<pre><gc-script> gclog.error("error message at template"); </gc-script></pre>

(2) debug 関数

書式	gclog.debug(str)
引数	str: メッセージ文字列
戻り値	なし
説明	GCHtmlLogFile ディレクティブで指定されたテンプレートログファイルにデバッグレベルでログを出力します。 GCHtmlLogFile ディレクティブが未設定の場合、または GCHtmlLogLevel が debug(2)未満の場合は、出力されません。
必要 JS ファイル	なし
導入バージョン	1.0.0
例	<pre><gc-script></pre>

	<pre>gclog.debug("debug message at template"); </gc-script></pre>
--	---

(3) trace 関数

書式	gclog.trace(str)
引数	str: メッセージ文字列
戻り値	なし
説明	<p>GCHtmlLogFile ディレクティブで指定されたテンプレートログファイルにトレースレベルでログを出力します。</p> <p>GCHtmlLogFile ディレクティブが未設定の場合、または GCHtmlLogLevel が trace(3)未満の場合は、出力されません。</p>
必要 JS ファイル	なし
導入バージョン	1.0.0
例	<pre><gc-script> gclog.trace("trace message at template"); </gc-script></pre>

(4) isErrorEnabled 関数

書式	gclog.isErrorEnabled()
引数	なし
戻り値	有効な場合は true を返す
説明	GCHtmlLogLevel で error(1)が設定されているかどうかを判定します。
必要 JS ファイル	なし
導入バージョン	1.0.0

例	<pre> <gc-script> if (gclog.isErrorEnabled()) { gclog.error('Error が有効です'); } </gc-script> </pre>
---	---

(5) isDebugEnabled 関数

書式	gclog.isDebugEnabled()
引数	なし
戻り値	有効な場合は true を返す
説明	GCHtmlLogLevel で debug(2)以上が設定されているかどうかを判定します。
必要 JS ファイル	なし
例	<pre> <gc-script> if (gclog.isDebugEnabled()) { gclog.debug('Debug が有効です'); } </gc-script> </pre>

(6) isTraceEnabled 関数

書式	gclog.isTraceEnabled()
引数	なし

戻り値	有効な場合は true を返す
説明	GCHtmlLogLevel で trace(3)以上が設定されているかどうかを判定します。
必要 JS ファイル	なし
導入バージョン	1.0.0
例	<pre> <gc-script> if (gclog.isTraceEnabled()) { gclog.trace(Trace が有効です'); } </gc-script> </pre>

2-3 gcruntime パッケージ

(1) loadJs 関数

書式	gcruntime.loadJs(path)
引数	path: JavaScript ファイルパス(文字列)
戻り値	なし
説明	path で指定された JavaScript ファイルを読み込み、実行します。 path は GCHtmlJsDirectory ディレクティブで設定したディレクトリパスからの相対パスとみなされます。
必要 JS ファイル	なし
導入バージョン	1.0.0
例	<pre><gc-script> gcruntime.loadJs("gcutils.js"); </gc-script></pre>

(2) loadJsOnce 関数

書式	gcruntime.loadJsOnce(path)
引数	path: JavaScript ファイルパス(文字列)
戻り値	なし
説明	path で指定された JavaScript ファイルを読み込み、実行します。ただし、既に読み込み済みの JS ファイルは読み込みません。 path は GCHtmlJsDirectory ディレクティブで設定したディレクトリパスからの相対パスとみなされます。

必要 JS ファイル	なし
導入バージョン	1.0.0
例	<pre><gc-script> gcruntime.loadJsOnce("gcutils.js"); </gc-script></pre>

(3) setTemplate 関数

書式	<code>gcruntime.setTemplate(path)</code>
引数	path: テンプレートファイルパス(文字列)
戻り値	なし
説明	<p>使用するテンプレートファイルを設定します。テンプレートパスはテンプレートディレクトリを基準とした/から始まるパスを指定します。</p> <p>この API はコントローラでのみ使用します。</p>
必要 JS ファイル	なし
導入バージョン	1.0.0
例	<code>gcruntime.setTemplate("/common.html");</code>

(4) redirect 関数

書式	<code>gcruntime.redirect(url, status)</code>
引数	<p>url: リダイレクト先絶対 URL(必須)</p> <p>status: レスポンスに使用するステータスコード(任意)</p>

戻り値	なし
説明	<p>指定された URL にリダイレクトを行うようなレスポンスを返します。status を省略した場合は、302 でリダイレクトを行います。</p> <p>この関数を呼び出す前に出力していたレスポンスは、全てキャンセルされます。この API を呼び出した後は、すぐに return してください。</p>
必要 JS ファイル	なし
導入バージョン	1.0.0
例	<pre>if (gcruntime.isGroup("android")) { gcruntime.redirect("http://www.example.com"); return; }</pre>

(5) setTerminfoProperty 関数

書式	gcruntime.setTerminfoProperty(key, value)
引数	key: 端末情報項目名 value: 端末情報値
戻り値	なし
説明	名前と値を指定して独自の端末情報を追加する。この関数を使って追加した情報は、リクエストが終わるまでの間、gcutil.getTerminfoProperty 関数で取得可能
必要 JS ファイル	なし
導入バージョン	1.1.0
例	gcruntime.setTerminfoProperty("foo", "bar");

2-4 jQuery 拡張関数

(1) gc_image_resize 関数

書式	jquery_obj.gc_image_resize(w)
引数	w: 変換後の画像幅(ピクセル数単位)
戻り値	変換後の自身のjQuery オブジェクト
説明	指定された幅で画像を縮小します。
必要 JS ファイル	gcutils.js
導入バージョン	1.0.0
例	<pre><gc-script> \$("img").gc_image_resize(100); </gc-script></pre>

(2) gc_image_clip 関数

書式	jquery_obj.gc_image_clip(fx, fy, tx, ty)
引数	<p>fx: 矩形領域の左上の X 座標 (0 以上の整数)</p> <p>fy: 矩形領域の左上の Y 座標 (0 以上の整数)</p> <p>tx: 矩形領域の右下の X 座標 (0 以上の整数)</p> <p>ty: 矩形領域の右下の Y 座標 (0 以上の整数)</p>
戻り値	変換後の自身の jQuery オブジェクト
説明	指定された矩形座標で画像を切り抜きます。
必要 JS ファイル	gcutils.js
導入バージョン	1.0.0
例	<pre><gc-script> \$("img").gc_image_clip(0, 0, 100, 100); </gc-script></pre>